刀屋平七
浮名仇討

松月新刀銘鑑

曲亭馬琴作
勝川春亭画

へ13
4465

へ13
4465

庚午新版合巻六冊

馬琴作

春亭画

刀屋半七
浮名仇討
松之月新刀明鑑

芝泉市梓

松之月新刀明鑑伝

曲亭馬琴編演

足利成氏　尊氏六代の孫。鎌倉の管領。左馬頭持氏の三男なり。

成氏息女　御衣姫

氏の息女京都将軍義勝公の北舎弟義政公の配偶なりしが物の怪ありて狂死なせし。

長尾判官昌賢　管領家の執権。嘉吉三年成氏を鎌倉へ入れて主とせり。

菅川半九郎　成氏の近臣。好色頼の癖者。ぬり衣姫が艶書をかりて又半七が妻が花の墓へ。楚六唐国を経て鎌倉へ来り。

武左衛門　ろくめ一万赤子を捉へ後よ

半九郎をなぶりて半七を殺す。

あくた　半九郎が乳母。大悪年道の白刃の義子なれば

くたび娘と親の因果がふかもひて半七を殺す。

戸吉　楚六が才子。陪臣なれども小半九郎を殺す。

千枝　楚六が一子。孝心深く

父の仇を討て名をあらはす。

樣ぬり松　半七が妻。貞女傳

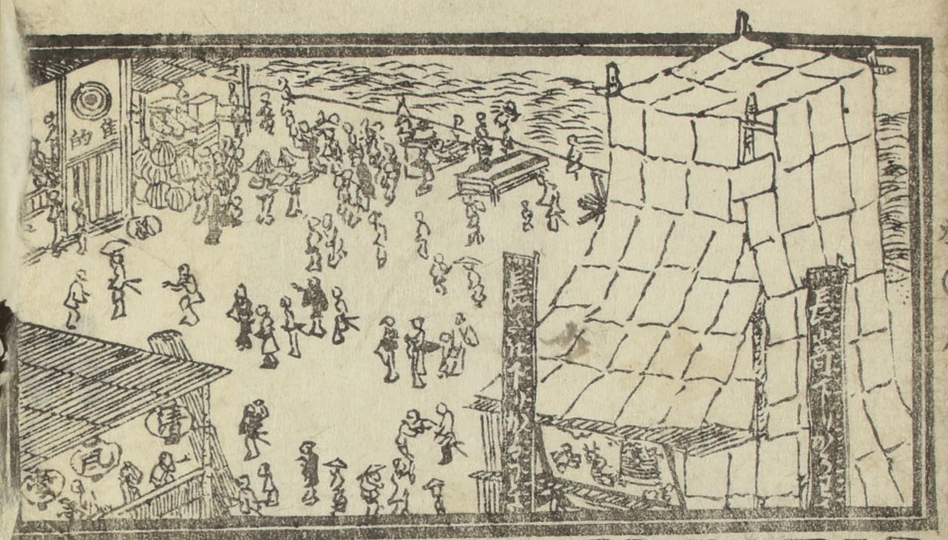
一刀斎　在今独歩兵法剣術の達人。半七を殺せり仇人となりて後よ仇人となりて

天郎　半七が[illegible]

文化六年己巳卯月上旬稿了
七年庚午正月吉日發販

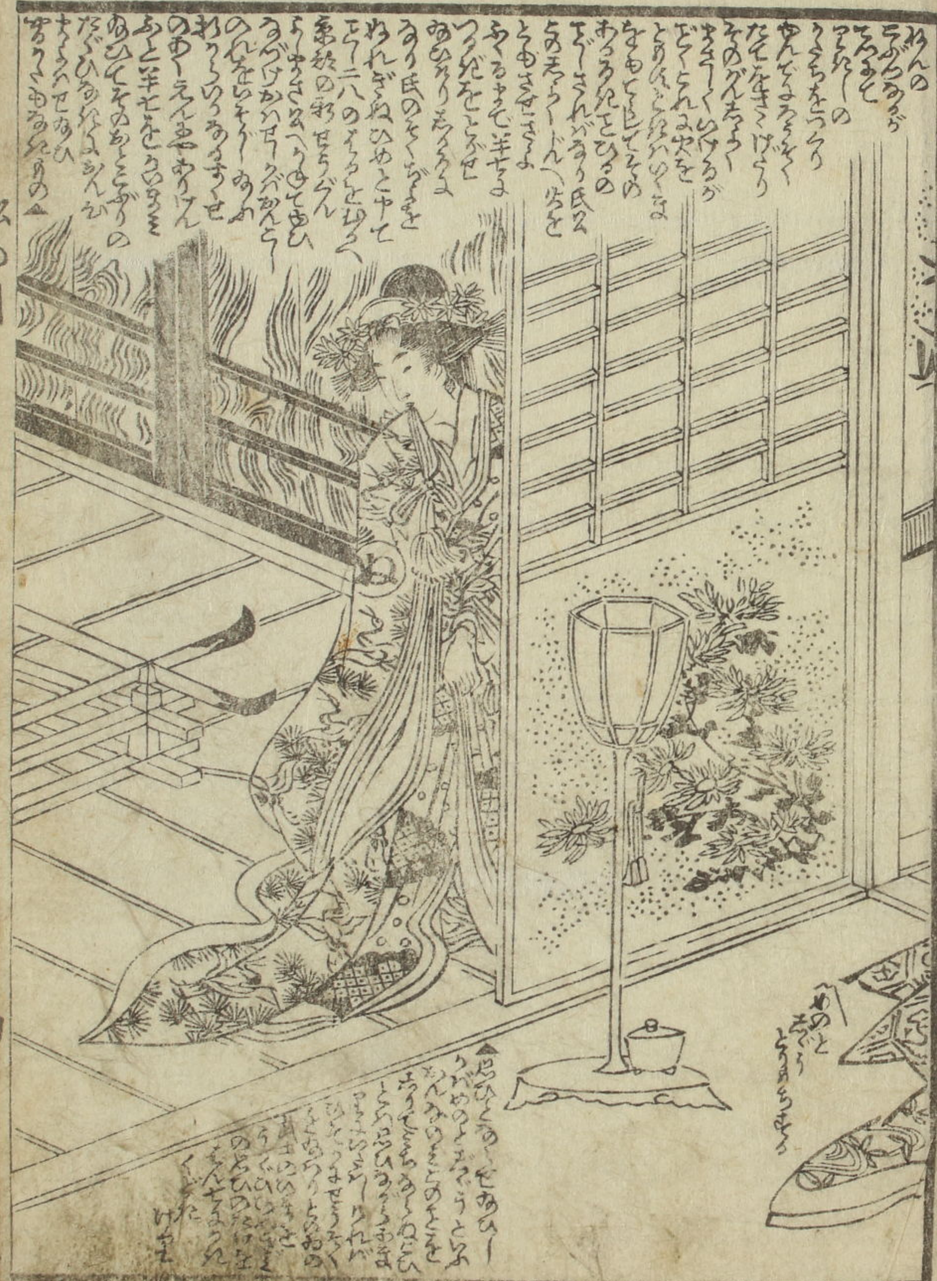
○贈君手尺霜
父雖不與共
載天
刀屋半七
半七妻
花
半七一子
七太郎
貧なるよ
著作堂

長尾判官昌賢
義経隠居
南亜鉄燭人
燭人又燭奴亦燈婢とも
中玉とも
童子のうたちをはくらせられよろ
燭奴とあづくる
とあり又寧王と
同書みえたり今図する
成氏
重宝
僧正優婆の



悪根
武太夫

須藤一刀斎
飯盛陳人
三頭
同品



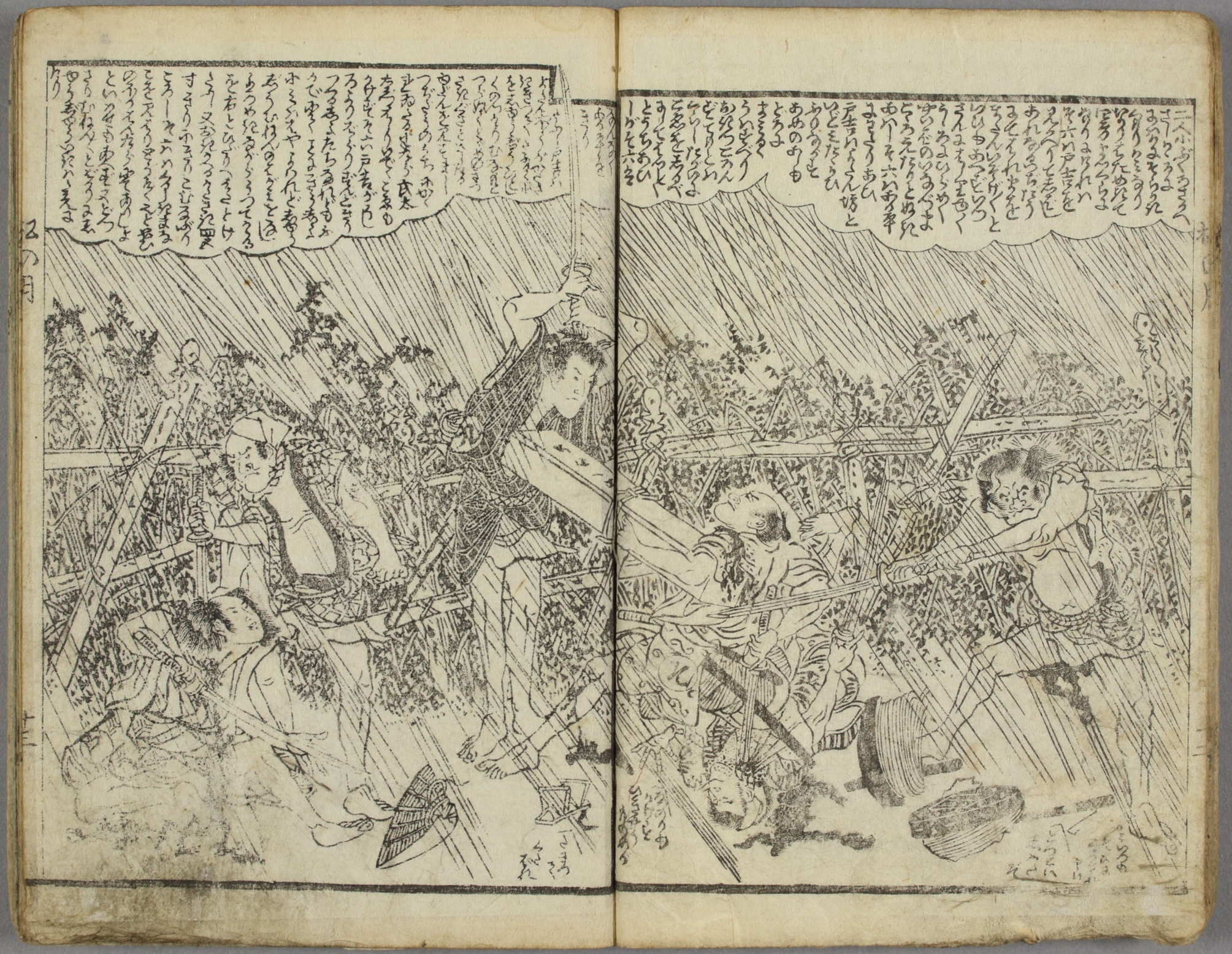
前中
長尾

刀
花
花

九
十

中村伊勢之助
十

前下
十二の月
燕石雜志 大本 五冊 出版
影彫 山口半四郎
同 久治郎



前編終

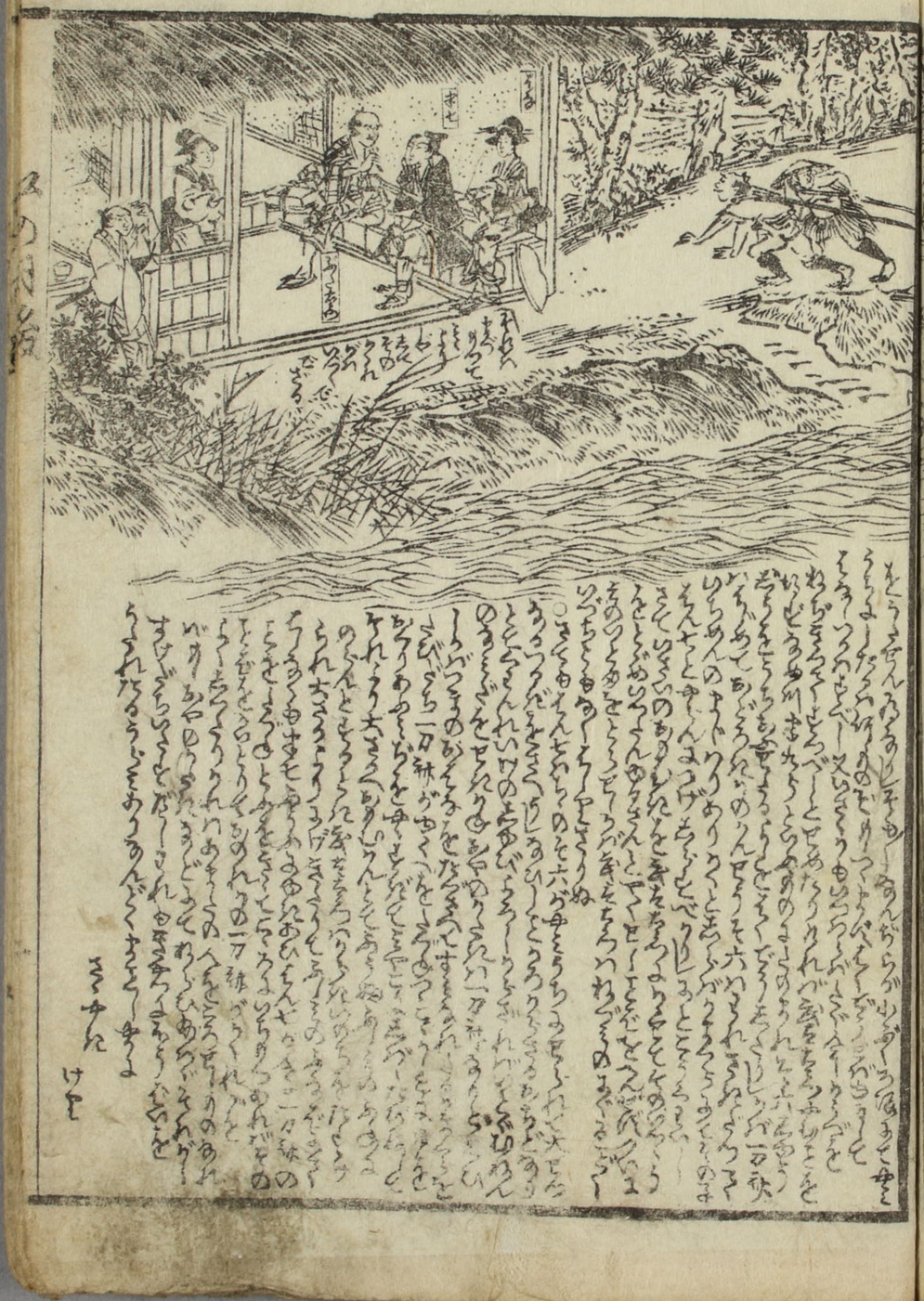
刀屋半七　馬琴作

深月新刀明鑑（しんたりめいかん）

後

浮名仇討　春亭画　泉市版

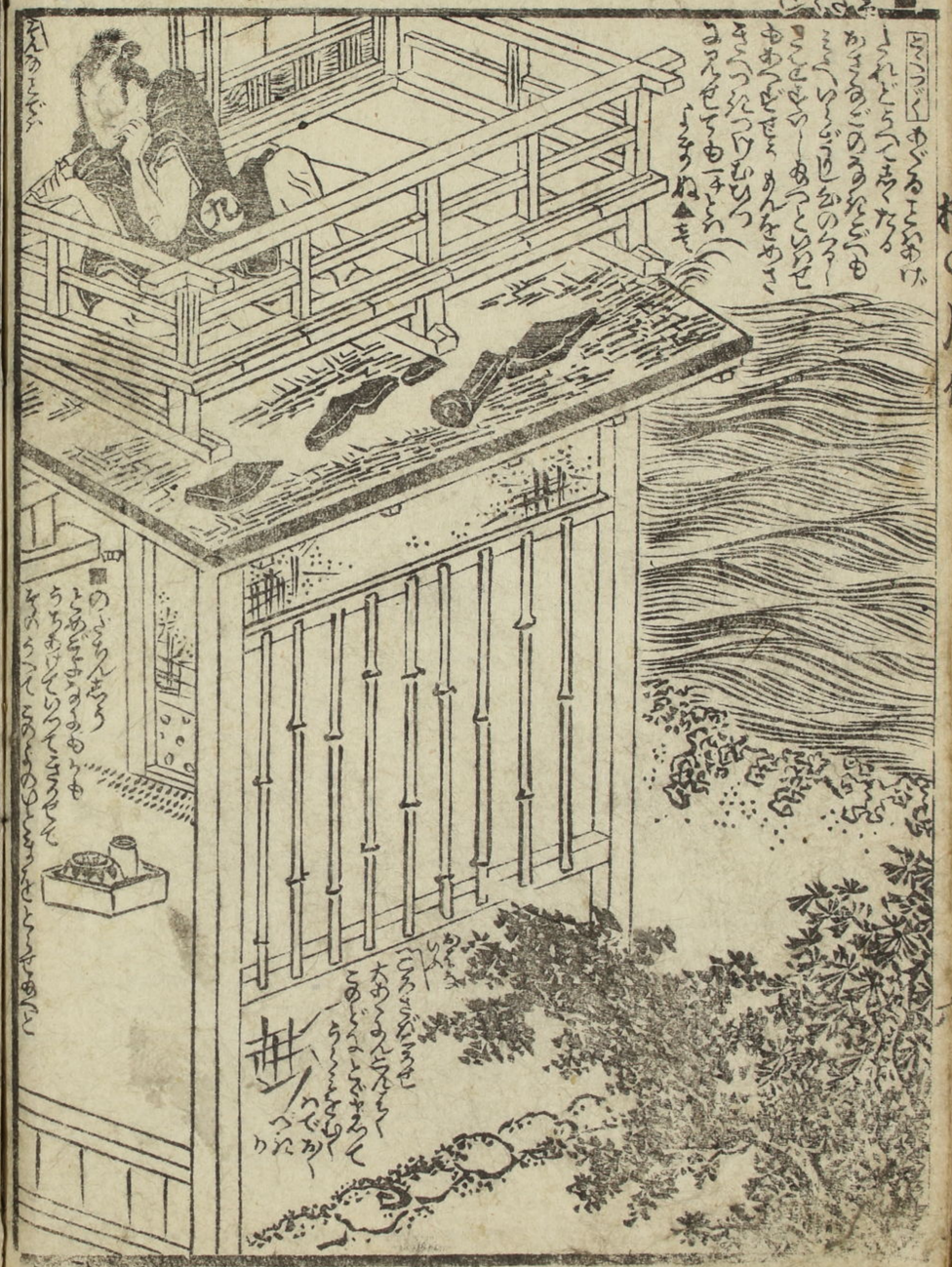
ウケ



花

羊

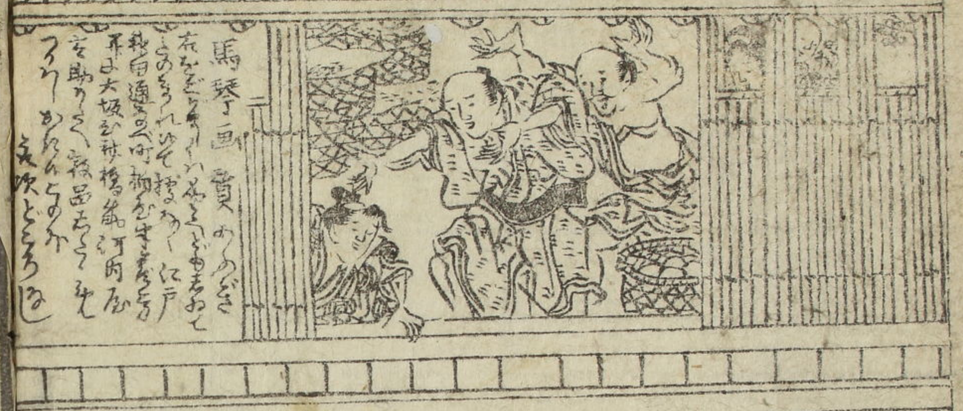
中後



後下

梅渋吉兵衛發心記
馬琴作
合巻
妖桜女清玄
馬琴作
合巻六冊

後編大尾



馬琴画賛のあらまし
在なをとなりしハ…
…
…